子育て・保育を通じて「感じる」「想う」「学ぶ」こと

社会福祉法人　大阪誠昭会　寝屋保育園　理事長　田中啓昭

今回で連載最終回となりました。総括する意味で、私が家庭での子育て、保育園での保育を通じて想うことを綴っていきたいと思います。

ゆっくり子育てにとりくもう

近頃は、とても便利な世の中になりました。電化製品を例にとるとよくわかりますが、便利さの象徴である「スピード」「多機能」「使い勝手」といったものがビジネス社会でも重要な位置を占め、君臨しています。

しかし、子育てにこの尺度を当てはめることは、かなり不釣り合いのように感じます。子どもにスピードを求めるかのごとく、「早く大人になってくれ！」といってもなってくれませんし、子どもが「早く大人になりたい！」と思ってもなれるものではありません。同様に、「これができるようになってくれ！」といっても、子どもがすぐにできるようにはならないものです。

このような日常生活やビジネス社会に慣れてしまった大人は、子どもにもそうした「便利さ」という名の「自分の都合」を求めている気がしてなりません。子育てには、むしろ真逆の「あせらず、ゆっくり」など、非効率でアナログ的な視点が必要で、大人が思うようにはなかなかいかないものです。

とはいうものの、子どもの将来を想い、親として「早く、～できるようになって欲しい」といった期待や希望をお持ちだと思います。では、その思いを具現化するためにはどんなことが必要なのでしょうか？ まずは、わが子についてよく知ることからはじめなければなりません。そして、自分が想い描く子どもの将来像に向けて、あせらずゆっくりと努力していくこと。ただし、努力していくのは、「環境」としての親の方です。子どもは育つようにしか育たないわけですから…。

「あせらず、ゆっくり」子育てを楽しもう

その子らしい成長を見守ること

植物を育てる場合を例にとってみましょう。植物の苗や種を見ても、「どんな花を咲かせるのか」「どんな実をつけるのか」は想像がつきません。しかし、その種や苗自身は自分がどうなるのかを知っています。そこで、その植物の将来の姿や、本来の特性を理解して最大限に生長する能力を引き出すために、適した肥料をあげたり、剪定をしたり、支柱を立てたり、花がらを摘んだり…。そうした「環境構成」という援助をすることで、自分が予想していた以上に大きくなったり、たくさんの実をつけたりするのです。つまり植物が育ち、立派に花を咲かせ、実をつけたりすることを想像し、愛情をこめて、楽しみながらゆっくりと育てていくわけです。

子育てにも、同じことがいえるのではないでしょうか。子どもの将来を想像して、子どもが持っている能力を最大限に引き出すための環境設定や援助をし、愛情をこめてあせらずゆっくり、コツコツとかかわっていくことが大切なのだと思います。また、植物は愛情をかけ過ぎて水や肥料を与え過ぎると、根腐れや肥料やけを起こしてしまいます。子どもも、愛情をかけ過ぎて大人が何でもしてしまうと無気力になったり、わがままになってしまいます。こんなところも、とてもよく似ていますね。

子育てに自信が持てないお父さん・お母さんへ

子育てに自信が持てなかったり、イライラしている時は、必ず自分目線になっています。そんな時は、まず深呼吸。それだけでも、ずいぶん変わってきます。子どもが持っている能力を信じて、「あせらず、ゆっくり」見守り、必要に応じて側面的に援助していく気持ちを意識的に持ってみましょう。あなたが「この子にとって私が最大の環境なんだ」という意識を持ってかかわっていくことで、きっとその子らしく育っていくはずです。

最後に、1年半にわたり私の稚拙な文章をお読みいただき、ありがとうございました。読者のみなさまが、子育てから喜びや楽しさを感じていただくお手伝いが少しでもできたのであれば、それ以上の喜びはありません。これからの子育て・孫育てライフを楽しんでくださいね。